自衛隊の現場

久居（三重県）
即戦力を目指して
新隊員総合訓練および修了式を実施

陸上自衛隊第33普通科連隊（連隊長・南平勇将1等陸佐）は2月18日と19日の両日に新隊員総合訓練を、26日に修了式を実施しました。

総合訓練では、前衛分隊としての行動、夜間における偵察、さらに防御体制をとる敵に対する陣地攻撃を行いました。特に最後の陣地攻撃では、薄暮の影響により演習場一帯が吹雪に見舞われる過酷な状況となりましたが、新隊員たちは仲間と声を掛け合いながら士気を保ち、攻撃の手を緩めることなく目標を確保し、任務をやり遂げました。

修了式は、訓練時の厳しい気象とは打って変わって晴天に恵まれ、晴れやかな空の下で実施されました。

新隊員たちはこれまでの教育期間を思い起こしながら連隊歌を斉唱し、力強く申告した後、連隊長より修了証書を受け取りました。その姿には自信と誇りがあふれ、入隊からの3カ月間での大きな成長が感じられました。

新隊員たちは、2月27日より本部管理中隊の各小隊へと配属され、一般隊員としての一歩を踏み出しました。今後は中隊の即戦力として任務にまい進し、さらなる精進を誓っております。

煙幕にまぎれて突入

都城（宮崎県）
現場連携の深化を図る
第43普連・警察との共同訓練を実施

陸上自衛隊第43普通科連隊（連隊長・石岡直樹1等陸佐）は3月5日、霧島演習場において宮崎県警察との共同訓練を実施しました。

本訓練は、武装工作員が県内に侵入したという想定の下、治安出動を命ぜられた自衛隊が警察と協力して対処する状況を再現し、実施されたものです。目的は、両機関の連携体制のさらなる強化と、相互の対応能力の向上にあります。

訓練開始式では、自衛隊側統裁官である第43普通科連隊副連隊長・新納敏矢2等陸佐が「本訓練を通じて、共同調整所や検問での連携を強化し、相互の能力や課題を把握すること。また、警察力のみでは対応困難な事態とは何か、という観点を持って臨んでほしい」と述べ、参加者に対し明確な目的意識を示しました。

開始式後、両部隊は車列を組んで訓練地域へ前進し、共同調整所での情報共有を皮切りに、各種検問、対象者の確保および制圧といった一連の実動訓練を実施しました。実戦さながらの緊張感の中で、連携の精度が試される貴重な機会となりました。

訓練終了後には、両部隊の訓練参加者による意見交換会が行われ、訓練の成果や今後の改善点について活発な意見が交わされました。本訓練は、実務に即した実践的な協力関係の強化に大きく寄与する、意義深い機会となりました。

なお、連隊長賞を西臨2等陸士が、中隊長賞を新藤[illegible]陸士長がそれぞれ受賞しました。

武装工作員確保（訓練）

豊川（愛知県）
戦技に磨きをかけ、団結を強化
機関銃射撃競技会を実施

陸上自衛隊第49普通科連隊（連隊長・近藤浩行1等陸佐）は3月5日に「令和6年度連隊武装断郊走競技会」、7日に「令和6年度連隊機関銃射撃競技会」を実施し、隊員の戦技能力の向上、団結の強化および士気の高揚を図りました。

武装断郊走競技会では、駐屯地内に設定された4㎞のコースを、戦闘服に鉄帽・水筒などを装着した5～6人のチームで走破。コース内には無線機操作、負傷者救護処置および担架搬送を要するエリアが設けられ、冷静な判断力とチームワークが問われる構成となっていました。

競技は、チーム単位での走行タイムを競う「チームの部」と、各中隊のチームの平均タイムを競う「中隊の部」が設定され、走力に加え、行動力・協調性など多様な要素が勝敗を左右しました。

結果、中隊の部では第2中隊が2位に1分以上の差をつけ、優勝しました。

続く機関銃射撃競技会では、5・56㎜機関銃MINIMIによる射撃精度を競い、第1～第5中隊から各3人の射手が選抜されて参加。日頃の練成成果を発揮し、緊張感の中で競技が展開されました。中隊ごとの平均得点および個人の得点で順位が決定され、第1中隊が優勝を飾りました。競技会終了後の閉会式では、成績優秀者への表彰が行われ、連隊長からは「われわれは有事において、いかなる状況下でも即応し、確実に任務を遂行しなければならない。そのためにも、平素からの不断の練成を続けてほしい」との講評が述べられました。

連隊としての一体感と個々の技量を高める本競技会は、大きな成果をもって終了しました。

連隊武装断郊走競技会

機関銃射撃競技会

練馬（東京都）
日印連携で磨く対テロ戦能力
「DG24」における実動訓練の成果

陸上自衛隊第1師団（師団長・馬渕誠司陸将）は2月24日から3月7日の間、東富士演習場および朝霞訓練場において、インド陸軍との実動訓練「ダルマ・ガーディアン24（DG24）」を実施しました。本訓練は、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向け、日印両軍の対テロ作戦遂行能力の向上と、協力関係の強化を目的としたものです。

訓練は機能別訓練と総合訓練に区分され、突入や空路潜入、IED（即製爆発装置）対処、実弾射撃などの各課目に共同で取り組みました。総合訓練では、市街地に潜伏する敵テロリストを制圧するという想定の下、日印部隊が連携し、ヘリボーンによる建物突入や、機動戦闘車による接護射撃を実施。建物内の敵勢力を速やかに制圧する一連の行動を演練しました。

また、装備品展示や文化体験、スポーツ交流を通じ、技術的な理解と隊員間の相互理解を一層深めることができました。参加隊員からは「高度な技術を学び、貴重な経験となった」との声が寄せられ、訓練の目的は十分に達成されたことが確認されました。

師団は今後も対テロ戦能力強化に取り組み、日印の連携を通じて地域の平和と安定に貢献してまいります。

建物内の敵勢力を速やかに制圧

富士（静岡県）
実戦力を磨く総合射撃訓練
異職種連携の下、射撃練度を強化

陸上自衛隊富士教導団（団長・豊田龍二陸将補）は3月17日から28日の間、東富士演習場において団射撃訓練を実施しました。

本訓練には普通科教導連隊、機甲教導連隊、特科教導隊および教育支援施設隊が参加し、実弾射撃における練度向上と、異なる職種間における連携体制の強化を目的として行われました。

前段訓練（17日・21日）では、部隊ごとに火器および火砲の射撃訓練を実施し、部隊ごとの技量向上を図るとともに、小部隊間での連携行動についても練成を行いました。続く後段訓練（23日・28日）では、より実戦に近い想定の下、各職種が協力して総合的な射撃行動を展開。状況に応じた迅速かつ的確な連携能力の向上が図られました。また、訓練期間中の27日には、陸上幕僚長による現地視察が実施され、訓練に臨む隊員たちの士気はいっそう高まりました。

富士教導団は、6月3日に予定されている令和7年度富士総合火力演習に向けて、引き続き高度な演練を重ね、より実践的な戦闘能力の向上に努めてまいります。

155㎜榴弾砲FH-70による射撃

桂（京都府）
満開の桜、地域とともに
「さくら並木公開」に約1万3千人が来場

陸上自衛隊桂駐屯地（司令・西田博昭1等陸佐）は4月5日と6日の両日に「さくら並木公開」を実施しました。

本行事は、地域住民との交流を深めることを目的として行われ、日中は装備品展示や高校生による音楽演奏、スタンプラリーなど、子供から大人まで幅広い世代が楽しめる催しが多数企画されました。

夜間には、満開の桜がライトアップされ、幻想的な雰囲気の中で来場者を魅了しました。

今年はちょうど見頃と重なったこともあり、2日間で約1万3千人が来場し、会場は大いに賑わいました。

来場者からは「桜が満開で非常に綺麗だった」「家族を連れてお花見ができてうれしい」といった喜びの声が多数寄せられました。

桂駐屯地は、今後も「地域との連携」を合言葉に、地域に根差した活動を継続し、信頼される駐屯地づくりに努めてまいります。

幻想的な雰囲気の満開の桜

岩見沢（北海道）
たゆまぬ技術の研鑽と研究心
格闘指導官養成集合訓練、熱き魂で完遂

陸上自衛隊第12施設群（群長・福永信彦1等陸佐）は1月9日から3月13日の間「令和6年度方面部隊格闘指導官養成集合訓練」を実施しました。

この訓練は方面直轄部隊の格闘特級保持者を対象に、指導官として必要な技術・知識・資質を育成し、理論に基づいた格闘技術を各部隊で適切に普及できる人材を養成することが目的です。

教官・助教は事前に計画を綿密に立て、訓練予行を実施。訓練の強度を段階的に高め、受講者の習熟度に応じた効果的な内容を展開しました。

格闘の本質やその意義を理解させるとともに、任務に直結する戦技能力の習得を重視し、実践的な指導が行われました。

総合訓練では法的根拠に基づいた格闘技術の運用を徹底。個人・組行動ともに即応力を高め、受講者たちは確かな成長を遂げました。

最終試験には17人が挑み、10人が格闘指導官として新たに認定。不合格となった7人も今後の再挑戦に意欲を示しており、その姿勢には頼もしさが感じられました。

第12施設群による本訓練の実施は今回で3回目。今後も技術の研鑽と研究心を持ち続け、より質の高い教育訓練に努めてまいります。

実践的な指導を実施

青森（青森県）
実戦に直結する練度を養う
第5普連「第5次連隊練成訓練」を実施

陸上自衛隊第5普通科連隊（連隊長・伊藤裕一1等陸佐）は3月24日から28日の間、岩手山演習場において「第5次連隊練成訓練」を実施しました。

本訓練は、各種火器の射撃および爆破に関する練度の向上を目的として行われ、7・62㎜狙撃銃、12・7㎜重機関銃、81㎜迫撃砲、120㎜迫撃砲による射撃訓練、ならびに各種爆破訓練など、多岐にわたる課目に取り組みました。

訓練期間中は、時折、雨まじりの雪や冷たい風が吹き付ける厳しい気象条件に見舞われましたが、隊員たちは寒さに屈することなくそれぞれの火器操作および射撃・爆破技術の向上に励みました。

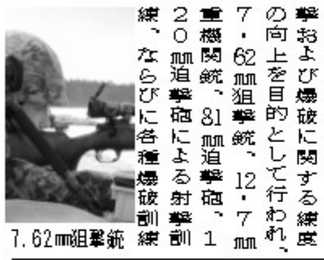
特に迫撃砲射撃では、前進観測陸曹が不在の場合を想定し、各中隊の小銃小隊から分隊長等が観測に参加。実弾射撃における着弾の判定および修正を通じて、射撃観測に必要な技能の練成を図ることができました。

また、狙撃手訓練では、指定された地点から錯雑地を活用して目標地域に潜入・識別・射撃・離脱までを行う「潜入訓練」を実施。

さらに、レンジャー特技保有者等による基礎爆破、物量爆破、道路爆破といった課目により、各種爆破に関する練度も着実に向上しました。

本訓練をもって、第5普通科連隊は令和6年度の訓練を締めくくり、次年度に向けたさらなる練成の礎を築くことができました。

120㎜迫撃砲の射撃


7.62㎜狙撃銃

南恵庭（北海道）
未来へつなぐ第3施設団の挑戦
DXを活用した陣地構築の最前線

陸上自衛隊第3施設団（団長・鹿子島洋陸将補）は2月4日、陸上幕僚監部および施設学校に対し、施設作業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）推進の取り組み状況を展示・説明しました。

本視察には、陸上幕僚監部、施設学校のほか、北部方面総監部および補給統制本部の主要幹部が参加しました。

特に注目されたのは、陣地構築に関する一連の作業において、従来の人力による測量とドローンを用いた空中測量の違い、さらに従来型の油圧ショベルとマシンガイダンス・マシンコントロール機能を備えたアシスト装置付き油圧ショベルとの性能差を、実員と実機を用いて比較展示した点です。

ICT（情報通信技術）機材の実用性を視覚的かつ実務的に紹介し、各部隊の理解を深めました。

また、今後は各機材をネットワークで連携させ、パソコン上で情報を共有することにより、指揮・統制の効率化や意思決定の迅速化を図り、施設作業全体のさらなる安全性・効率性の向上につなげていく方針を説明しました。

第3施設団は「不易流行（ふえきりゅうこう）」の精神、すなわち変わらぬ本質を守りながらも、時代に応じた変革を恐れない姿勢を信条としています。これからも、伝統を継承しつつ、最新技術を取り入れ「DX施設団」としての自覚と誇りをもって、知恵と工夫、本気の努力で前進してまいります。

ICT機材の実用性を紹介

青森（青森県）
全国に響く勝利の一声
柳谷3曹、全自レスリング大会初優勝

陸自第5普通科連隊（連隊長・伊藤裕一1等陸佐）所属の柳谷将広3等陸曹は3月1日と2日の両日、埼玉県朝霞市で開催された全自衛隊レスリング大会に出場し、個人戦・男子フリースタイル86㎏級において、見事初優勝を果たしました。

柳谷3曹は高校時代よりレスリングに打ち込み、第5普通科連隊に配属後も青森駐屯地レスリングクラブに所属し、課業外の時間を活用して技を磨いてきました。ここ数年は陸曹教育隊への入隊や格闘指導官資格取得の準備などで練習の機会が限られていましたが、今年に入り再び練習を重ね、6年ぶりに大会出場を決意しました。

大会では順調に勝ち進み、準決勝では強豪・第37普通科連隊（信太山）の助田選手との激戦を迎えました。

一進一退の攻防の末、試合終了間際にポイントを奪い僅差で勝利。決勝ではその勢いのまま試合開始直後にテクニカルフォールを奪い、堂々の初優勝を果たしました。

柳谷3曹は「今大会ではこれまでの練成の成果を十分に発揮することができました。今後もさらなる高みを目指して努力を続けていきます。また、レスリングを通じて培った闘争心や対人技能を、隊員の近接戦闘能力の向上にも役立てていきたいと考えています」と、今後の抱負を語りました。

柳谷将広3等陸曹

表彰台上の柳谷3曹

船岡（宮城県）
地域とともに、信頼を築く
白石川河川敷清掃活動に参加

3月15日、宮城県柴田郡柴田町に所在する陸上自衛隊第312ダンプ車両中隊（中隊長・菅原竜也3等陸佐）は、柴田町が主催する「しばた桜まつり開催に伴う白石川河川敷清掃活動」に参加しました。

この活動は桜の名所として知られる「一目千本桜」が咲き誇る白石川沿いの花見会場を、訪れる人々に気持ちよく楽しんでもらうための環境美化活動であり「おもてなし大作戦」として実施されたものです。

当日は、地域住民や企業関係者など総勢326人が参加しました。

中隊からは中隊長を含む12人が参加し、水上では渡河ボートを活用して川の中に投棄されたごみを収集、地上では消波ブロック帯などの危険箇所を中心に清掃活動を行いました。

地域を代表する桜の名所・白石川の環境美化に貢献できたことを大変光栄に思うとともに、今後もこのような地域連携の取り組みに積極的に参加し、地域社会から信頼される部隊であり続けたいと考えています。

消波ブロック帯でごみを収集

収集したゴミ

福知山（京都府）
春を告げる「福知山お城まつり」
市民と共に歩む駐屯地の支援活動

陸上自衛隊福知山駐屯地（司令・佐藤敏人1等陸佐）は4月5日と6日の両日「第三十六回福知山お城まつり」を支援しました。

このまつりは、春の訪れを告げる恒例行事として、昭和38年頃より名称を変えながら長年市民に広く親しまれており、昭和61年に福知山城の天守閣再建を記念した「福知山お城まつり」として現在に至ります。

2日間で延べ約2万人以上が来場し、会場は多く人々で賑わいました。

福知山駐屯地は開催初期から明智光秀の大名行列を再現した「光秀行列」への参加をはじめ、太鼓演武や装備品展示などを通じてまつりを支援しております。

装備品展示では、偵察用オートバイや73式小型トラックを公開し、隊員たちは装備の説明を交えながら、来場した子どもたちとの交流を楽しみました。

ステージでは第3音楽隊が大阪万博にちなんだ楽曲を披露し、福知山酒呑鬼太鼓による迫力ある演武も観客を魅了しました。

また、広小路通りでは福知山踊りパレードが行われ、駐屯地書友会の隊員も参加し、他団体と共に賑やかな踊りを繰り広げました。

まつりの最後には、酒呑鬼太鼓の合図とともに、満開の桜に包まれた福知山城から光秀行列（毛槍奴隊）が出発しました。

広小路通りでは多くの団体が合流し、観客と共に盛大なフィナーレを迎えました。

今回の支援を通じて、市民との交流を深める貴重な機会となりました。今後も地域行事への積極的な参加を重ねて、さらなる信頼関係の構築に努めてまいります。

73式小型トラックを展示

地獄谷温泉後楽館は
自衛官を応援しています

漢字あそび　第25回

問題：熟語　知ってるかな？

初級　知らないとちょっと恥ずかしい
・政治家などが自分の意見を説いて回ること
・俳句や短歌、詩の総称

中級　意外とやっかい
・怖がる心のこと
・細かく小さな石のこと「君が代」にも登場

上級　自慢できるかな
・人の誤りを正し真実を告げること

（解答は、7面に）
（出題・解答：LUCKY）
※数字：頭の体操はお休みします。